

平成 30 年度第 1 回 伊勢市子ども家庭支援ネットワーク委員会議 議事録（要旨）

開催日時 平成 30 年 5 月 17 日（木）午後 1 時 30 分～3 時 15 分

開催場所 三重県伊勢庁舎 101 会議室

出席委員 村上洋子委員、中森忠司委員、奥田治委員、中井健治委員、中井眞知子委員、秋山則子委員、山崎幸喜委員、岩佐香委員、濱口基久委員、伊寿秀夫委員、鎌田尚樹委員、田口昇委員、藤田典子委員、高村貞子委員、籠谷芳行委員、濱口憲子委員、岡村昭委員、久米邦明委員、岡村豊委員、山吉秀樹委員、射場俊夫委員、上野尚委員、泰道詞子委員

欠席委員 なし

事務局 健康福祉部参事、こども課長、こども家庭相談センター長、外 2 名

傍聴者 0 名

あいさつ

○健康福祉部参事

日頃、子どもが健やかに育つために尽力していただき感謝申し上げます。

子どもは、家庭の中で健やかに育つのが一番ではあるが、様々な理由により家庭で育つことができない子どももいる。このネットワークでは、そのような子どもや家庭を支えるため関係機関が連携して支援していただいている。

委員任期の満了に伴い今年度改選となり、関係機関からの推薦により委員を引き受けていただきお礼を申し上げます。今後、専門的な立場から支援に協力をお願いします。

委員会議は年 2 回の開催であり、委員各位は忌憚なきご意見をお願いします。

委嘱状・辞令交付

委嘱状（17 名）・辞令（6 名）を交付。

機関紹介

構成機関（団体）機能紹介シートによる各委員から機関（団体）の紹介。

報告・協議事項

（1）会長・副会長選任

事務局案の提示を求める発言があり、会長に奥田治委員を、副会長に村上洋子委員を選任する案を提示。委員から「異議なし」の声があり、承認。

○会長あいさつ

虐待防止や早期発見・対応に向けて、今後もネットワークの運営に協力をお願いします。副会長の児童相談所長とともに、皆さんと連携を深めて対応していきたい。

○副会長あいさつ

年度当初から虐待通告の対応が続いている。要対協（子ども家庭支援ネットワーク）の各会議において、情報共有や支援の役割分担をしてきたところであり、要対協が機能していることを実感している。今後も協力をお願いします。

(2) 平成 29 年度 伊勢市子ども家庭支援ネットワーク活動実績報告

事務局から資料に沿って説明。

【各委員主な意見】

○なし

(3) 平成 30 年度 伊勢市子ども家庭支援ネットワーク活動計画（案）

資料に基づき、事務局より提案。

→ 承認

【各委員主な意見】

○委員

母子健康手帳に便色を記載するページ*があり、生まれた時と 2 週間後の便色を記載するようになっているが今まで記載を見たことがない。ネットワーク活動にある講習などで資料を渡すと思うが、しっかり読む人はあまりいないのが現状である。家庭環境が悪い人ほど読まず、その人たちにいかに支援を届けるかが課題である。

保護者の情報源はインターネットが主となり、携帯端末で曖昧な知識を収集している。正しくない知識が蔓延することで、夜間救急や時間外受診が増加する一因となっている。自分に関係ない、興味がない情報を遮断している人に、必要な情報を届けることが難しいところである。

※便色カードは、胆道閉鎖症を早期発見する目的で、母子保健法施行規則の一部を改正する省令（平成 23 年 12 月 28 日厚生労働省令第 158 号）により、母子健康手帳に掲載が義務付けられた。

○事務局

情報発信していく上で、発信することが目的に陥りがちである。必要な情報がきちんと子育て世帯へ届くよう広報啓発を進めたい。

○副会長

委員が所属する機関が子育て支援制度を理解して、委員は地域にある子育て支援制度を子育て世帯へ伝えるのも役目である。赤ちゃんから 18 歳までの子どもがいる支援が必要な家庭を関係機関の皆さんが察知した時には、必要な支援を繋げるコーディネートが大事である。この会議を通じて、皆さんが関係を構築して支援に繋げてもらいたい。

(4) その他

○事務局

市では県とともに里親制度の普及啓発に取り組んでいる。里親制度の理解を深めるため、「里親出前講座」を会議や研修の機会に是非とも利用を検討していただきたい。

○副会長

里親は、養子縁組とは違い、養育が一時的にできない時に養育を手助けする人であり、地域の子育てサポーターである。里親普及に向けて協力願いたい。